

第1・2学年 音楽科

児童の実態（7月現在）

<p>＜実態の分析＞観点別結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○〈関・意・態〉音楽に関心をもち、進んで学習に取り組んでいる。 ○〈創・技〉楽曲の気分を感じ取って歌ったり、リズムに気を付けて音を合わせて演奏したりできる。 ○〈鑑〉リズムや強弱等の音楽の要素や、問いと答えによる音楽の仕組みを聴き取って、感じ取ったことを簡単な言葉で表すことができる。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定]</p> <p>楽しく音楽に関わることを通して、基礎的な知識や表現の能力を育てる。</p>	<p>[指導]</p> <p>題材の目標や、1時間のめあてを明確にして学習活動を進める。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>補充的な指導を必要としている児童への個別指導を行う。</p>
<p>[学習形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人での学習活動 ・ペアや少人数での学習活動 ・クラス、学年での演奏 	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>ペアや少人数での活動を通して、音を介した友達との関わり合いや学び合いを体験できるようにする。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名、めあての板書 ・視覚的にわかりやすい資料や電子黒板の活用 ・場面に応じた指示、助言 	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>絵や写真等の視覚的にも捉えやすい資料を提示する。 発問、指示は端的に行う。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>身近にある様々な楽器に触れたり、簡単なリズムや旋律を演奏したりして、演奏表現することに興味や関心をもつことができるようにする。</p>
<p>[教材の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の題材を中心に進める。 ・児童の実態に合わせた題材の工夫や選曲を行う。 	<p>[教材の工夫]</p> <p>児童が興味や意欲をもって学習活動ができるように、実態を考慮した題材の工夫や楽曲の選曲を行う。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>めあてをもとに、児童の発言、行動観察、演奏の聴取、学習カードの内容をもとに評価する。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>児童が他の児童との関わりの中で、互いの考えや思いを認め合い、そこから学びを深めることができたか見取る。</p>	

<p>＜評価・修正＞</p> <p>[評価]</p> <p>リズム遊びをとおして拍を感じたり、基本的なリズムを学習したりできた。わらべうたの学習では、ペアや少人数のグループになって友達と関わり合いながら楽しく活動することができた。</p> <p>[修正]</p> <p>行事に向けての練習の時に、1時間のめあてが曖昧になってしまっていたので、きちんとめあてを提示して進める。</p>

第3・4学年 音楽科

児童の実態（7月現在）

<p>＜実態の分析＞観点別結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○〈関・意・態〉音楽に関心をもち、進んで学習に取り組んでいる。 ○〈創・技〉曲想にふさわしい表現を工夫したり、互いの音を聴き、音を合わせて演奏したりできる。 ○〈鑑〉曲想を感じ取って聴くことができる。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<p>[課題設定]</p> <p>基礎的な表現の能力を伸ばし、思いや意図をもって表現できるようにする。</p>	<p>[指導]</p> <p>題材の目標や、1時間のめあてを明確にして学習活動を進める。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>補充的な指導を必要としている児童への個別指導を行う。</p>
<p>[学習形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人での学習活動 ・少人数グループでの学習活動 ・クラス、学年での演奏 	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>少人数グループでの活動を通して、音を介した友達との関わり合いや学び合いを体験できるようにする。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名、めあての板書 ・視覚的にわかりやすい資料や電子黒板の活用 ・場面に応じた指示、助言 	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>絵や写真等の視覚的にも捉えやすい資料を提示する。 発問、指示は端的に行う。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>様々な楽器に触れたり、楽曲を演奏したりして、演奏表現への興味や関心を高めることができるようにする。</p>
<p>[教材の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の題材を中心に進める。 ・児童の実態に合わせた題材の工夫や選曲を行う。 	<p>[教材の工夫]</p> <p>児童が興味や意欲をもって学習活動ができるように、実態を考慮した題材の工夫や楽曲の選曲を行う。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>めあてをもとに、児童の発言、行動観察、演奏の聴取、学習カードの内容をもとに評価する。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>児童が他の児童との関わりの中で、互いの考えや思いを認め合い、そこから学びを深めることができたか見取る。</p>	

<p>＜評価・修正＞</p> <p>[評価]</p> <p>基本的な知識や技術の習得については、個人差があるので補充的な指導を必要としている児童への指導を行った。</p> <p>[修正]</p> <p>学習活動を展開していく中で、教師が主導する割合が多くなってしまったので、子供が主体となって活動できるような学習内容の工夫をしていく。</p>

第5・6学年 音楽科

児童の実態（7月現在）

<実態の分析>観点別結果の分析

- 〈関・意・態〉進んで学習に取り組む児童が多い。
- 〈創・技〉曲想を生かした表現を工夫したり、各声部の歌声や全体の響きを聴いて声を合わせたりして歌うことができる。
- 〈鑑〉音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴くことができる。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 基礎的な表現の能力を高め、主体的に学習活動ができるようにする。	[指導] 題材の目標や、1時間のめあてを明確にして学習活動を進める。	[補充的な学習指導] 補充的な指導を必要としている児童への個別指導を行う。
[学習形態] ・個人での学習活動 ・グループでの学習活動 ・クラス、学年での演奏	[学習形態の工夫] グループでの活動を通して、音を介した友達との関わり合いや学び合いを体験できるようにする。	
[発問・指示・板書計画] ・題材名、めあての板書 ・視覚的に分かりやすい資料や電子黒板の活用 ・場面に応じた指示、助言	[発問・指示・板書の工夫] 絵や写真等の視覚的にも捉えやすい資料を提示する。 発問、指示は端的に行う。	[発展的な学習指導] 様々なジャンルの音楽を聴いたり演奏したりして、音楽のよさや面白さに気付くことができるようにする。
[教材の活用] ・教科書の題材を中心に進める。 ・児童の実態に合わせた題材の工夫や選曲を行う。	[教材の工夫] 児童が興味や意欲をもって学習活動ができるように、実態を考慮した題材の工夫や楽曲の選曲を行う。	
[評価の方法] めあてをもとに、児童の発言、行動観察、演奏の聴取、学習カードの内容をもとに評価する。	[評価の工夫] 児童が他の児童との関わりの中で、互いの考えや思いを認め合い、そこから学びを深めることができたか見取る。	

<評価・修正>

[評価] 基礎的な表現の能力は高まってきているが、個人差があるため、補充的な指導を必要としている児童への個別指導の徹底を行っていく。主体的に活動できるような教材の工夫や児童の実態に合った学習形態の工夫をしていく必要がある。

[修正] 行事にむけての練習の時などに、1時間のめあてが曖昧になってしまったので、めあてを明確に提示して進める。